

平成 28 年 10 月～12 月期 景気動向調査

報告書

平成 29 年 2 月
与論町商工会

1. 調査時期：平成 29 年 1 月 10 日 ～ 平成 29 年 2 月 24 日

2. 調査対象：町内商工業事業所より業種別に抽出

3. 回答内訳：30 事業所

内訳) 飲食業 (5 事業所)

サービス業 (10 事業所)

建設業 (5 事業所)

製造・卸・小売 (10 事業所)

概要

- ✓ 景況感は全体としては全国との比較で好調
- ✓ 特に観光関連産業においては極めて良好
- ✓ 観光関連産業とその他業種との差異が所在
- ✓ 客数の増加は顕著な一方客単価は低下傾向
- ✓ 基幹産業により獲得した資金の地域内循環促進が課題

1. 平成 28 年 10 月～12 月期の与論町景況

■【Q1】今期景況 <SA>

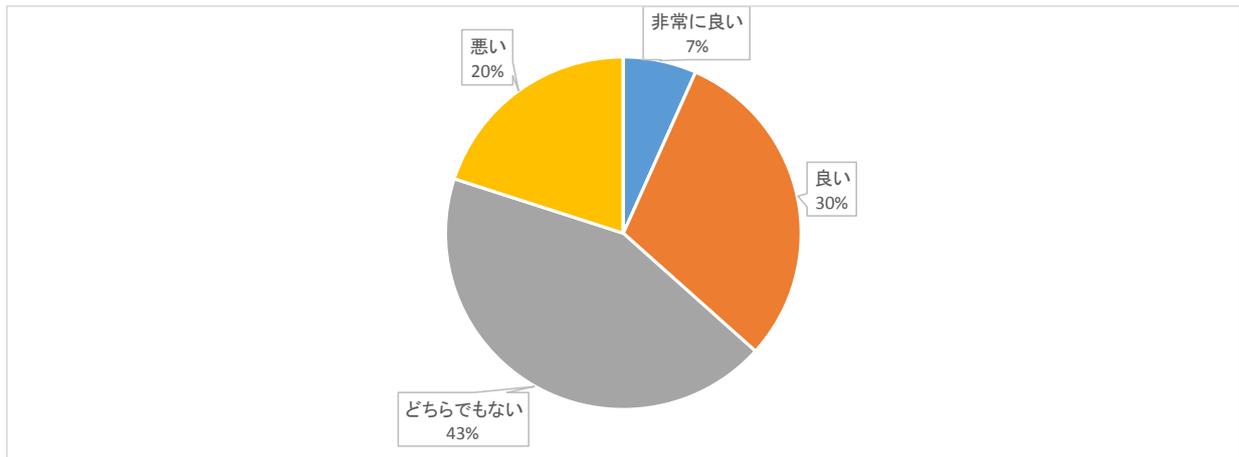
平成 28 年 10 月～12 月期の前年同期と比較した景況感は、非常に良い 6.7%、良い 30.0%、悪い 20.0%、非常に悪い 0.0%となりました。また、どちらでもない（変わらない）は 43.3%でした。

DI（「非常に良い」－「非常に悪い」）＋（「良い」－「悪い」）は 16.7 となり、中小企業庁による全国の調査値▲24.2（全業種、「好転」－「悪化」）を大幅に上回っています。

	全体	非常に良い	良い	どちらでもない	悪い	非常に悪い	無回答
件数	30	2	9	13	6	0	0
%	100.0	6.7	30.0	43.3	20.0	0.0	0.0

業況判断DI

与論町	16.7	(「非常に良い」－「非常に悪い」)＋(「良い」－「悪い」)
全国	-24.2	「好転」－「悪化」



■【Q2】来期見通し <SA>

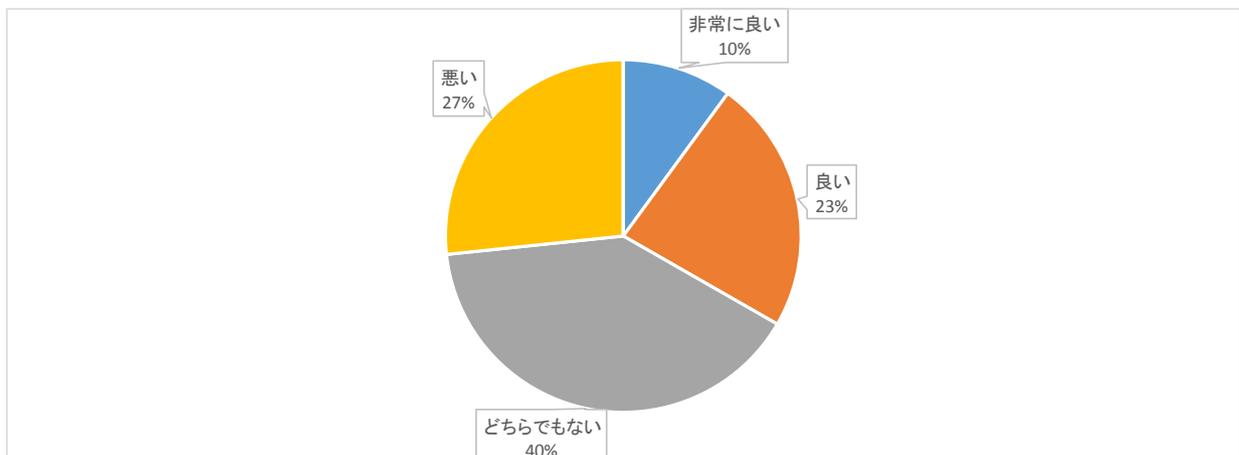
平成 29 年 1 月～3 月期の前年同期と比較した景況見通しは、非常に良い 10.0%、良い 23.3%、悪い 26.7%、非常に悪い 0.0%となりました。また、どちらでもない（変わらない）は 40.0%でした。

DI（「非常に良い」－「非常に悪い」）＋（「良い」－「悪い」）は 6.7 となり、中小企業庁による全国の調査値▲21.0（全業種、「好転」－「悪化」）を大幅に上回っています。

	全体	非常に良い	良い	どちらでもない	悪い	非常に悪い	無回答
件数	30	3	7	12	8	0	0
%	100.0	10.0	23.3	40.0	26.7	0.0	0.0

業況判断DI

与論町	6.7	(「非常に良い」－「非常に悪い」)＋(「良い」－「悪い」)
全国	-21.0	「好転」－「悪化」

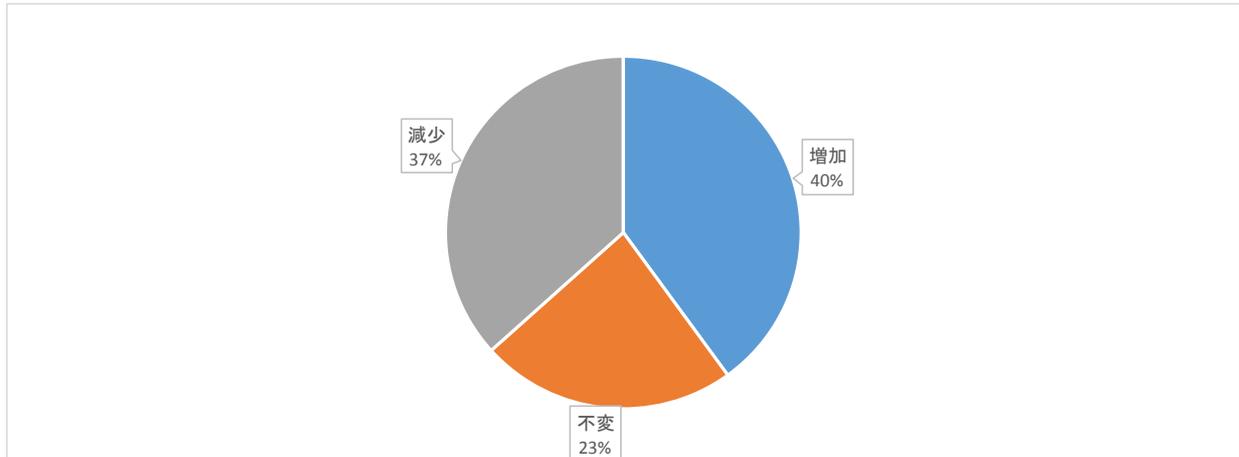


■【Q3-1イ】前年比売上 <SA>

平成 28 年 10 月～12 月期の前年同期と比較した売上は、増加 40.0%、不変 23.3%、減少 36.7%となりました。

DI（「増加」－「減少」）は 3.3 となり、中小企業庁による全国の調査値▲25.6（全業種、「増加」－「減少」）を大幅に上回っています。

	全 体	増加	不変	減少	無回答
件 数	30	12	7	11	0
%	100.0	40.0	23.3	36.7	0.0



業況判断DI

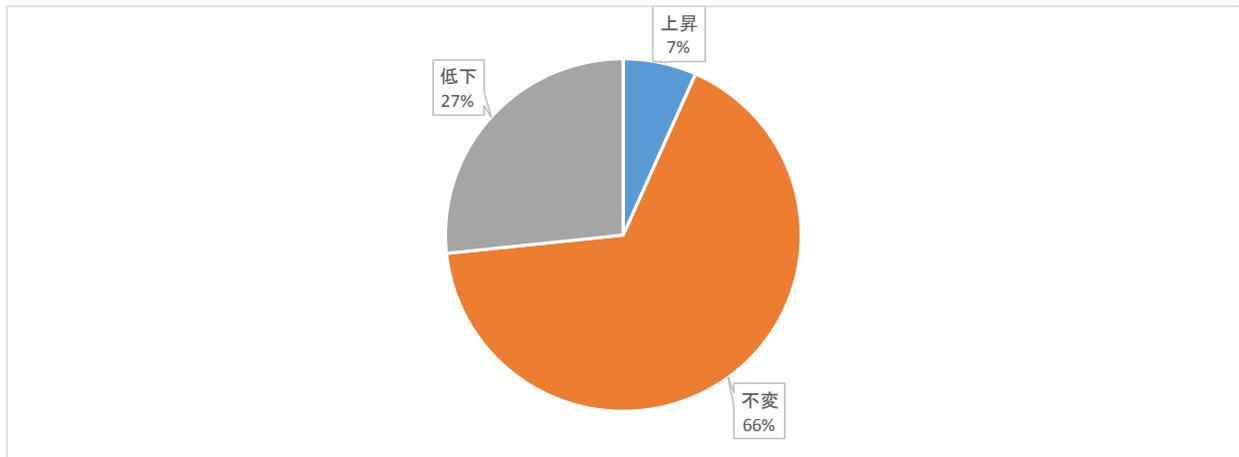
与論町	3.3	「増加」－「減少」
全国	-25.6	「増加」－「減少」

■【Q3-1ロ】前年比客単価 <SA>

平成 28 年 10 月～12 月期の前年同期と比較した客単価は、上昇 6.7%、不変 66.7%、低下 26.7%となりました。

DI（「上昇」－「低下」）は▲20.0 となり、中小企業庁による全国の調査値▲15.6（全業種、「増加」－「減少」）をやや下回っています。

	全 体	上昇	不変	低下	無回答
件 数	30	2	20	8	0
%	100.0	6.7	66.7	26.7	0.0



業況判断DI

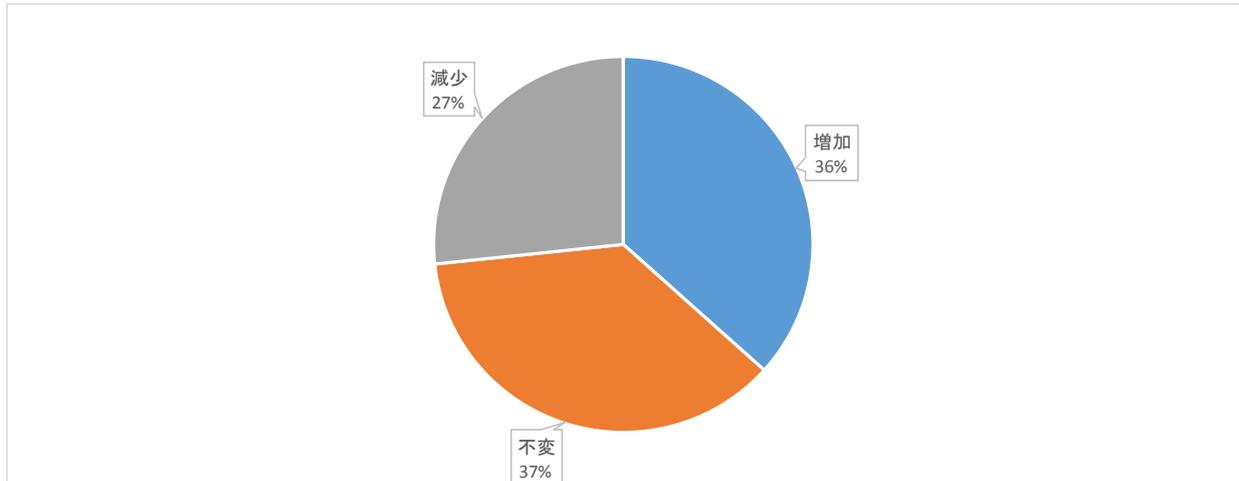
与論町	-20.0	「上昇」－「低下」
全国	-15.6	「上昇」－「低下」

■【Q3-1ハ】前年比客数 <SA>

平成 28 年 10 月～12 月期の前年同期と比較した客数は、増加 36.7%、不変 36.7%、減少 26.7%となりました。

DI（「増加」－「減少」）は 10.0 となりました。客単価の低下を客数の増加がおぎない、売上高の増加に寄与しているものと考えられます。

	全 体	増 加	不 変	減 少	無 回 答
件 数	30	11	11	8	0
%	100.0	36.7	36.7	26.7	0.0

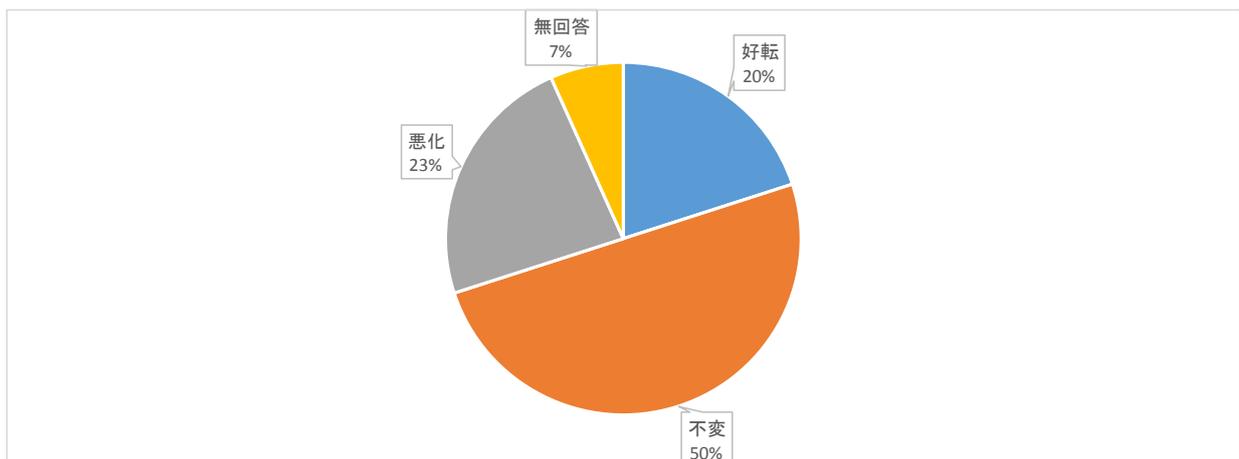


■【Q3-1ニ】前年比資金繰り <SA>

平成 28 年 10 月～12 月期の前年同期と比較した資金繰りは、好転 20.0%、不変 50.0%、悪化 23.3%となりました。

DI（「好転」－「悪化」）は▲3.3 となり、中小企業庁による全国の調査値▲15.6（全業種、「好転」－「悪化」）を上回っています。

	全 体	好 転	不 変	悪 化	無 回 答
件 数	30	6	15	7	2
%	100.0	20.0	50.0	23.3	6.7



業況判断DI

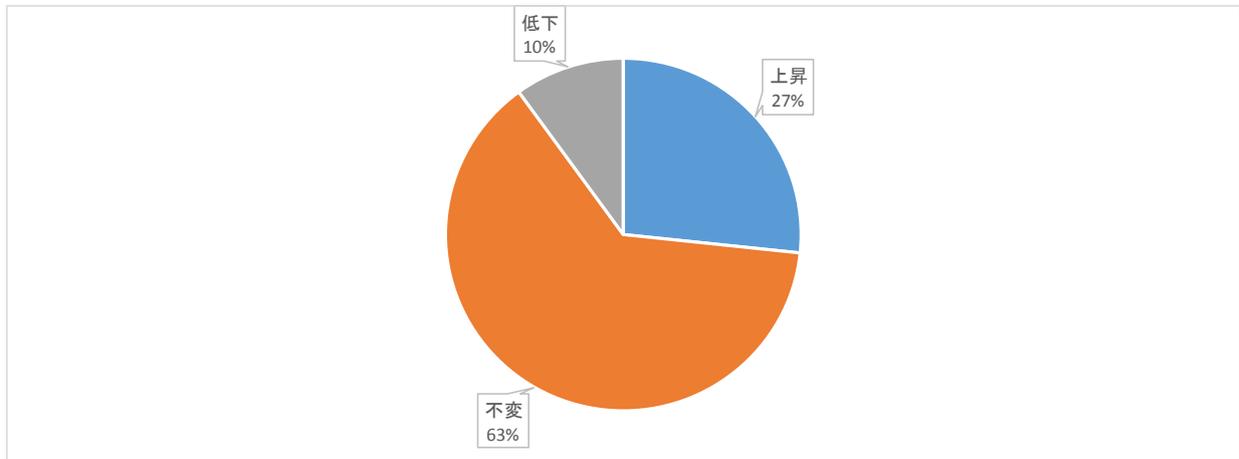
与論町	-3.3	「好転」－「悪化」
全国	-15.6	「好転」－「悪化」

■【Q3-1 木】前年比仕入単価 <SA>

平成 28 年 10 月～12 月期の前年同期と比較した仕入単価は、上昇 26.7%、不変 63.3%、低下 10.0%となりました。

DI（「上昇」－「低下」）は 16.7 となり、中小企業庁による全国の調査値 20.5（全業種、「上昇」－「低下」）を下回っています。

	全 体	上 昇	不 変	低 下	無 回 答
件 数	30	8	19	3	0
%	100.0	26.7	63.3	10.0	0.0



業況判断DI

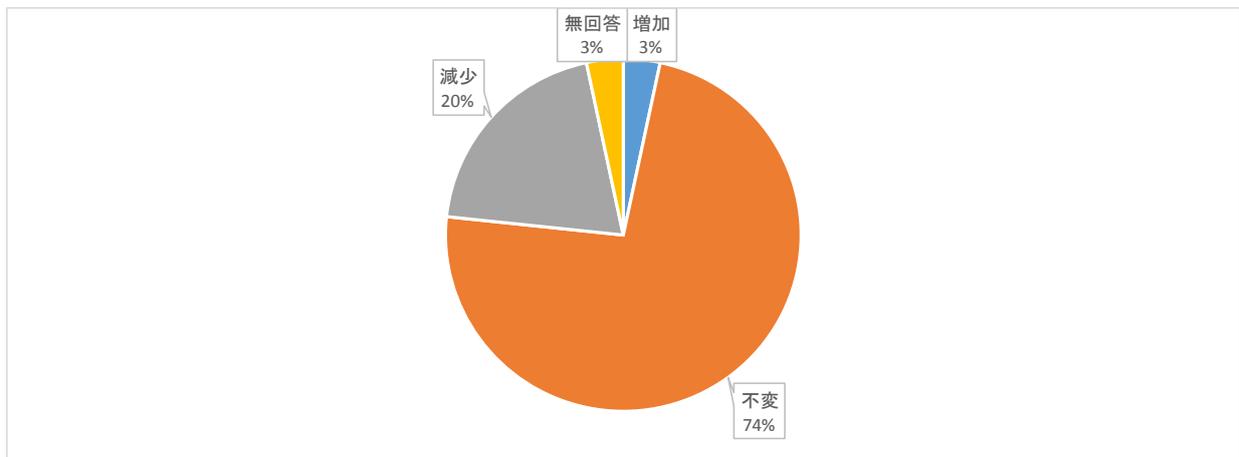
与論町	16.7	「上昇」－「低下」
全国	20.5	「上昇」－「低下」

■【Q3-1 へ】前年比在庫 <SA>

平成 28 年 10 月～12 月期の前年同期と比較した在庫は、増加 3.3%、不変 73.3%、減少 20.0%となりました。

DI（「増加」－「減少」）は 16.7 となり、中小企業庁による全国の調査値 13.7（全業種、「増加」－「減少」）を下回っています。

	全 体	増 加	不 変	減 少	無 回 答
件 数	30	1	22	6	1
%	100.0	3.3	73.3	20.0	3.3



業況判断DI

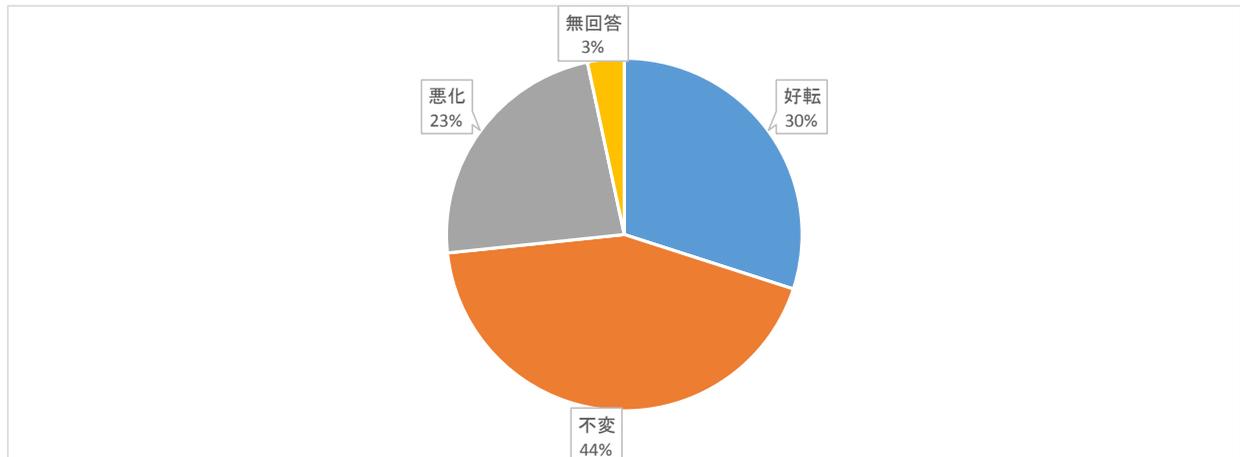
与論町	-16.7	「増加」－「減少」
全国	-13.7	「増加」－「減少」

■【Q3-1ト】採算 <SA>

平成 28 年 10 月～12 月期の前年同期と比較した採算は、好転 30.0%、不変 43.3%、悪化 23.3%となりました。

DI（「好転」－「悪化」）は 6.7 となり、中小企業庁による全国の調査値▲25.4（全業種、「好転」－「悪化」）を大幅に上回っています。

	全体	好転	不変	悪化	無回答
件数	30	9	13	7	1
%	100.0	30.0	43.3	23.3	3.3



業況判断DI

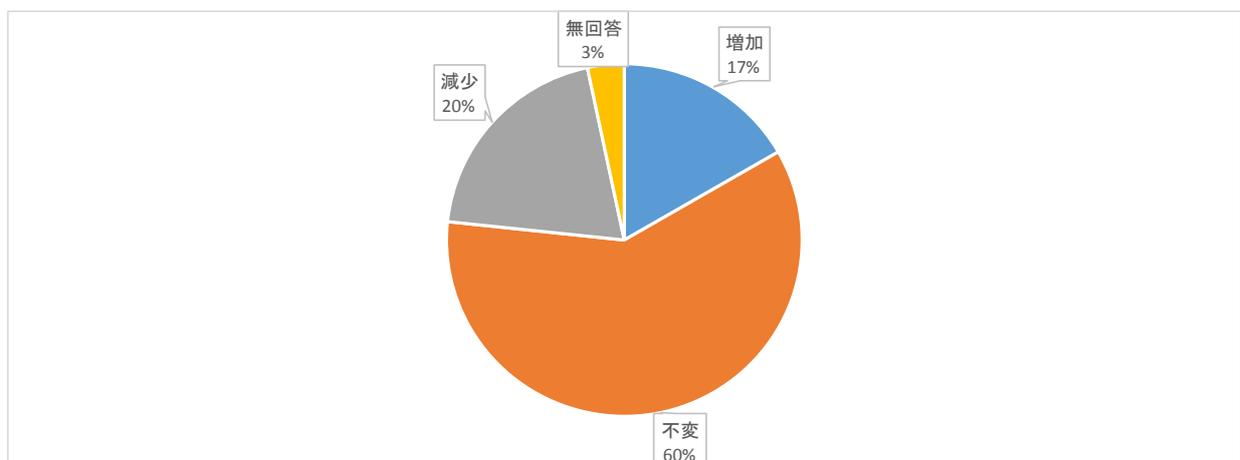
与論町	6.7	「好転」－「悪化」
全国	-25.4	「好転」－「悪化」

■【Q3-1チ】従業員 <SA>

平成 28 年 10 月～12 月期の前年同期と比較した従業員は、増加 16.7%、不変 60.0%、減少 20.0%となりました。

（「増加」－「減少」）は▲3.3%となり、中小企業庁による全国の調査値▲4.2%（全業種、「増加」－「減少」）を上回って（減少幅が少ない）います。

	全体	増加	不変	減少	無回答
件数	30	5	18	6	1
%	100.0	16.7	60.0	20.0	3.3



業況判断DI

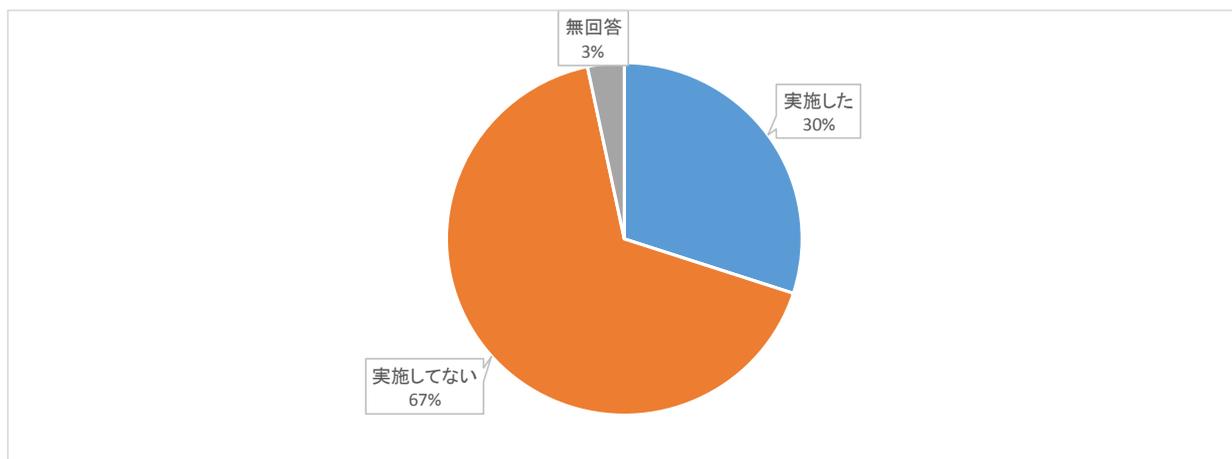
与論町	-3.3	「増加」－「減少」
全国	-4.2	「増加」－「減少」

■【Q4-1】今期設備投資 <SA>

平成 28 年 10 月～12 月期に設備投資を行った事業者は 30.0%でした。
実施した設備投資の内容は、下記があげられています。

- ✓ ダイビング器材
- ✓ マリンサービス機材
- ✓ マリンジェット、船、シュノーケリング用品
- ✓ 玄関
- ✓ 事務所の改装工事
- ✓ 宿泊施設の改修、備品導入
- ✓ 設備投資内容
- ✓ 店舗の改装工事
- ✓ 店舗改修（スロープ設置、駐車場整備）
- ✓ 冷凍・冷蔵庫の設備

	全 体	実施した	実施してない	無回答
件 数	30	9	20	1
%	100.0	30.0	66.7	3.3

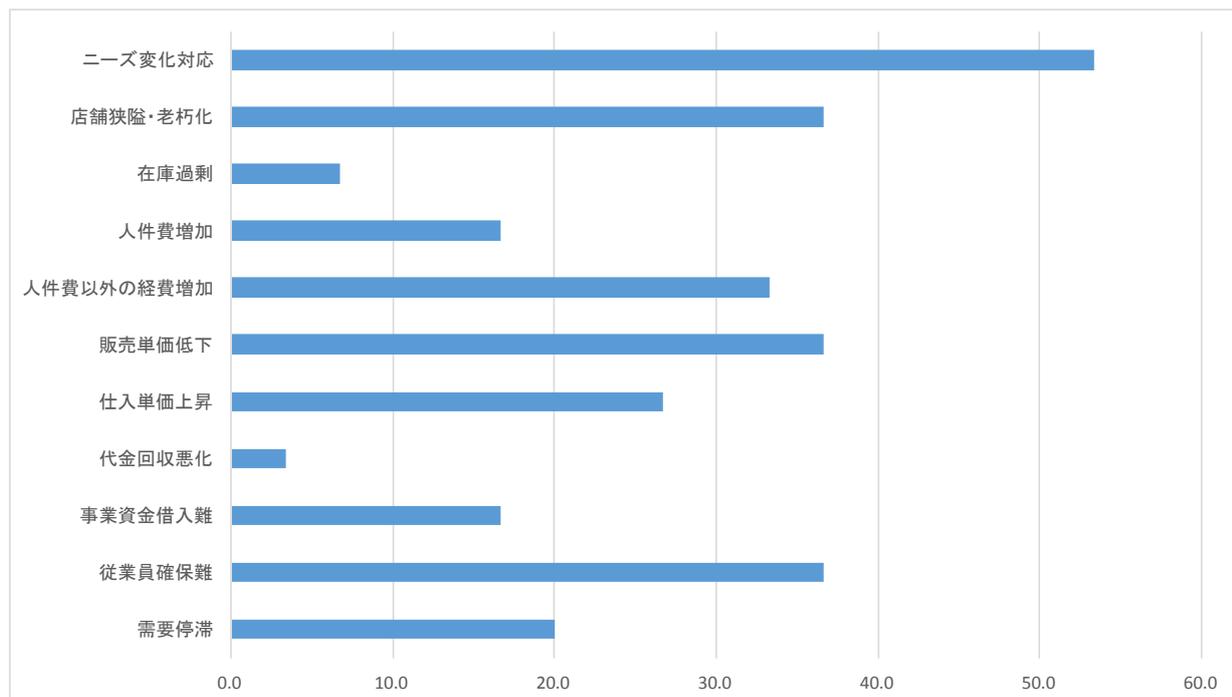


■【Q5-3】経営上の問題点①+②+③

経営上の問題点として選択肢の中から3つまで回答いただきました。

	(12) 全 体	Q5-3-1 ニーズ変化対応	Q5-3-2 店舗狭隘・老朽化	Q5-3-3 在庫過剰	Q5-3-4 人件費増加	Q5-3-5 人件費以外の経費増加	Q5-3-6 販売単価低下
件 数	30	16	11	2	5	10	11
%	100.0	53.3	36.7	6.7	16.7	33.3	36.7

Q5-3-7 仕入単価上昇	Q5-3-8 代金回収悪化	Q5-3-9 事業資金借入難	Q5-3-10 従業員確保難	Q5-3-11 需要停滞
8	1	5	11	6
26.7	3.3	16.7	36.7	20.0



- ✓ 消費者ニーズの変化への対応
53.3%と最も多くあげられました。消費者ニーズの変化は早く、いかに迅速に対応し顧客満足を高めていくことが重要との認識を持つ事業者が多数と推定されます。
- ✓ 店舗狭隘化・老朽化
36.7%と約3分の1の事業者から回答が寄せられています。こうした点を問題とする背景のひとつとしてお客様の増加が推定されます。比較的業況が良好な際に多くあげられる問題点といえます。
- ✓ 販売単価の低下・上昇難
36.7%と約3分の1の事業者から回答が寄せられています。調査結果からも販売単価の低下傾向がみられます。取扱商品等の高付加価値化・ブランド化等への取組の必要があるかもしれません。
- ✓ 従業員確保難・人手不足
どちらかという好況期に多く見られる問題点といえます。客数の増加が要因のひとつと推定されます。
- ✓ 経費等の増加、そのほか
人件費以外の経費増加、仕入単価上昇、人件費増加など経費に関わる問題点が一定数あげられています。ほか、需要停滞、事業資金借入難、在庫過剰、過剰在庫などを経営問題として認識している事業者がみられます。

2. 平成 29 年 1 月～3 月期の与論町景況見通し

平成 29 年 1 月～3 月期の景況見通しに関しては、平成 28 年 10 月～12 月期と同様の傾向となっています。

全体として、現在の好調な状況が今後も継続するとの見通しを持つ事業者が多数です。

■【Q3-2イ】来期売上 <SA>

	(3)	Q3-2イ-1	Q3-2イ-2	Q3-2イ-3	Q3-2イ-4
	全体	増加	不変	減少	無回答
件数	30	7	15	7	1
%	100.0	23.3	50.0	23.3	3.3

■【Q3-2ロ】来期客単価 <SA>

	(3)	Q3-2ロ-1	Q3-2ロ-2	Q3-2ロ-3	Q3-2ロ-4
	全体	上昇	不変	低下	無回答
件数	30	3	22	5	0
%	100.0	10.0	73.3	16.7	0.0

■【Q3-2ハ】来期客数 <SA>

	(3)	Q3-2ハ-1	Q3-2ハ-2	Q3-2ハ-3	Q3-2ハ-4
	全体	増加	不変	低下	無回答
件数	30	6	18	6	0
%	100.0	20.0	60.0	20.0	0.0

■【Q3-2ニ】来期資金繰り <SA>

	(3)	Q3-2ニ-1	Q3-2ニ-2	Q3-2ニ-3	Q3-2ニ-4
	全体	好転	不変	悪化	無回答
件数	30	5	17	6	2
%	100.0	16.7	56.7	20.0	6.7

■【Q3-2ホ】来期仕入単価 <SA>

	(3)	Q3-2ホ-1	Q3-2ホ-2	Q3-2ホ-3	Q3-2ホ-4
	全体	上昇	不変	低下	無回答
件数	30	7	21	2	0
%	100.0	23.3	70.0	6.7	0.0

■【Q3-2ヘ】来期在庫 <SA>

	(3)	Q3-2ヘ-1	Q3-2ヘ-2	Q3-2ヘ-3	Q3-2ヘ-4
	全体	増加	不変	減少	無回答
件数	30	2	25	2	1
%	100.0	6.7	83.3	6.7	3.3

■【Q3-2ト】来期採算 <SA>

	(3)	Q3-2ト-1	Q3-2ト-2	Q3-2ト-3	Q3-2ト-4
	全体	好転	不変	悪化	無回答
件数	30	6	18	5	1
%	100.0	20.0	60.0	16.7	3.3

■【Q3-27】来期従業員 <SA>

	(3)	Q3-27-1	Q3-27-2	Q3-27-3	Q3-27-4
	全体	増加	不変	減少	無回答
件数	30	8	18	3	1
%	100.0	26.7	60.0	10.0	3.3

■【Q4-2】来期設備投資 <SA>

	(2)	Q4-2-1	Q4-2-2	Q4-2-3
	全体	計画している	計画していない	無回答
件数	30	7	22	1
%	100.0	23.3	73.3	3.3

計画している設備投資の内容は、下記があげられています。

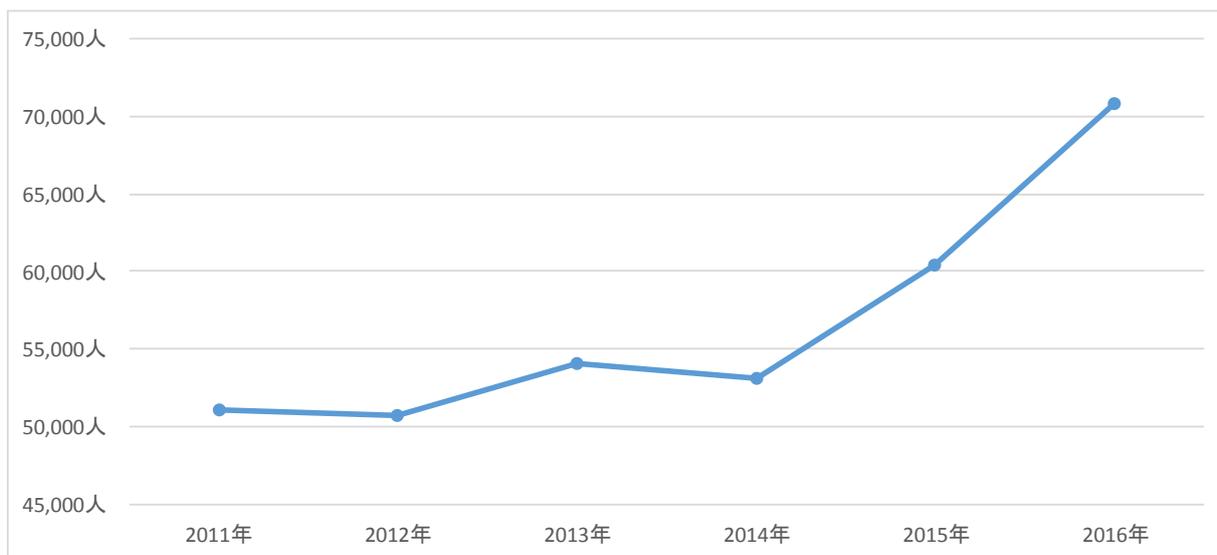
- ✓ イートインスペースをつくる予定
- ✓ トイレの改修新築
- ✓ マリン機材
- ✓ 看板設置
- ✓ 空調設備の設置
- ✓ 最新のアクティビティ設備
- ✓ 浄化槽設置他
- ✓ 設備投資内容

3. 旅行客数の推移と観光関連産業

(1) 旅行客入り込み数の推移

2011年～2016年の旅行客入り込み数の推移は下記の通りです。

2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
51,052人	50,681人	54,097人	53,120人	60,379人	70,871人



2014年までは50,000人前後での推移を続けていましたが、2015年以降急激に増加し、2016年には前年比で10,000人超増加（10,492人、増加率11.7%）しています。

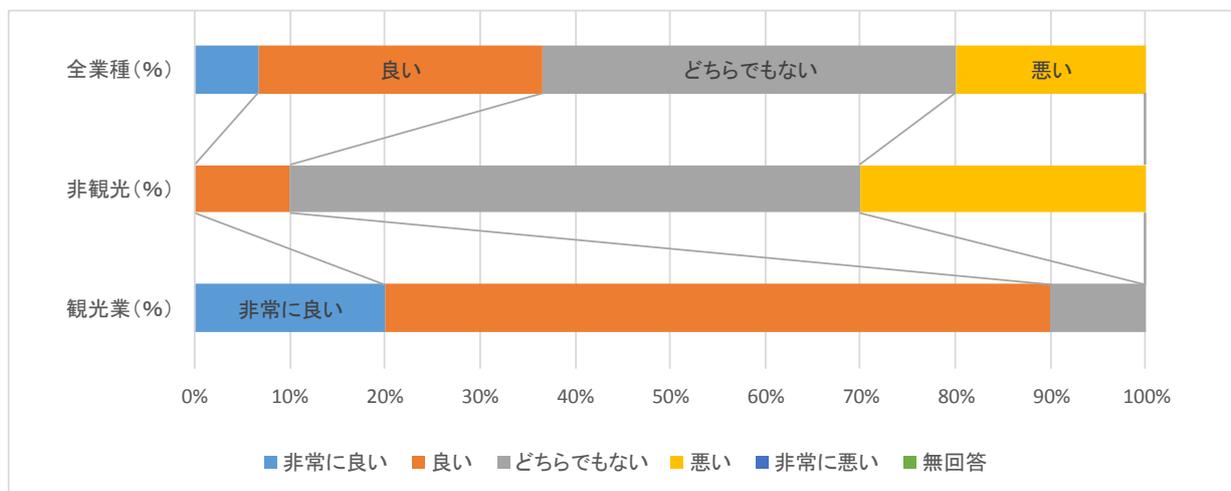
(2) 観光関連産業の動向

このような状況を受け、町内観光関連産業は好調となっています。

今回の調査対象の中から観光関連産業（観光関連サービスおよび土産品小売）10事業所と、それ以外の業種（建設、一般小売・サービス、製造）20事業所について、主要な調査項目を比較すると下記の通りの結果となりました。

■【Q1】今期景況 <SA>

	非常に良い	良い	どちらでもない	悪い	非常に悪い	無回答
全業種(%)	6.7	30.0	43.3	20.0	0.0	0.0
非観光(%)	0.0	10.0	60.0	30.0	0.0	0.0
観光業(%)	20.0	70.0	10.0	0.0	0.0	0.0



現在(平成28年10月～12月期)の景況感については、観光関連産業では非常に良い20.0%、良い70.0%、どちらでもない10.0%であり、悪い・非常に悪いとする回答はありません。DIは90.0と極めて高いものとなります。

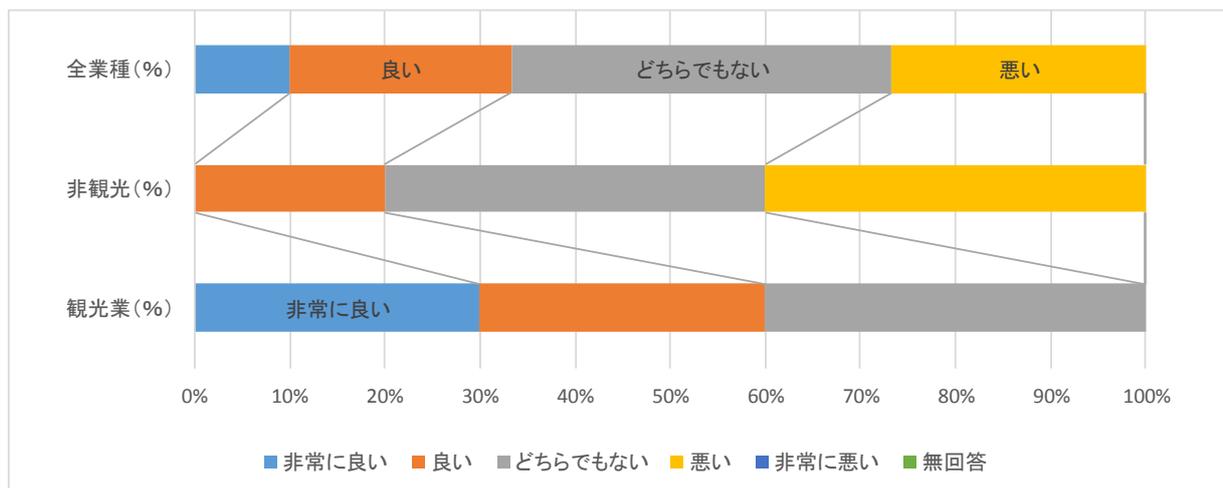
一方、非観光関連産業では、良い10.0%、どちらでもない60.0%、悪い30.0%であり、DIは▲20.0という結果となりました。

当町の基幹産業である観光関連産業が牽引役となり地域経済活性化に寄与しているものと考えられますが、他産業への波及は途上にあるものと推定されます。

また、来期の見通しのほか、売上高や採算などに関しても現在の景況感と同様の傾向となっており、現在のところ、観光関連産業とそれ以外の産業との間に差異がみられる状況といえます。

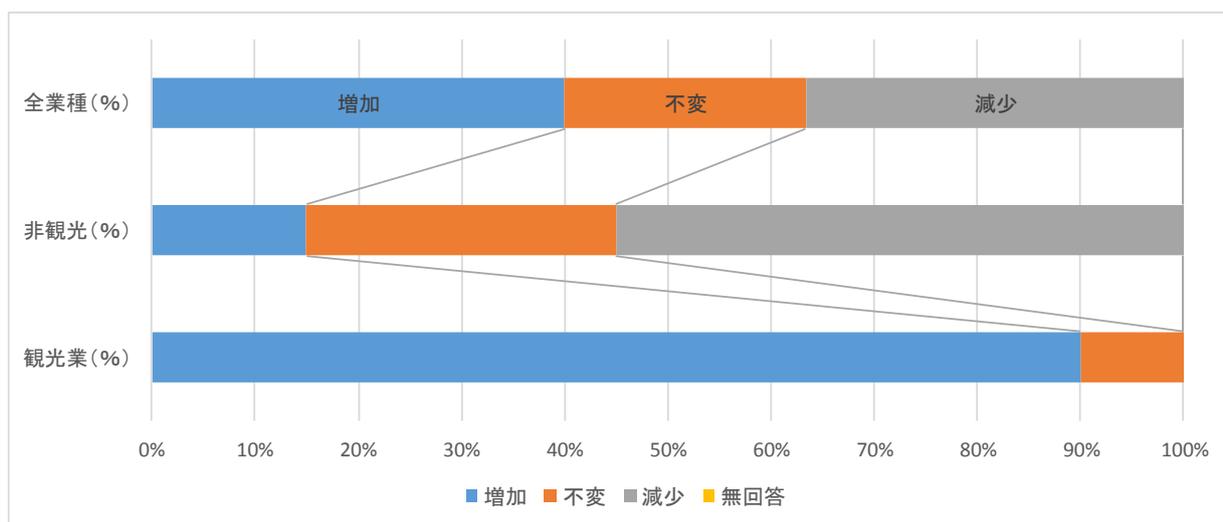
■【Q2】来期見通し <SA>

	非常に良い	良い	どちらでもない	悪い	非常に悪い	無回答
全業種 (%)	10.0	23.3	40.0	26.7	0.0	0.0
非観光 (%)	0.0	20.0	40.0	40.0	0.0	0.0
観光業 (%)	30.0	30.0	40.0	0.0	0.0	0.0



■【Q3-1】前年比売上 <SA>

	増加	不変	減少	無回答
全業種 (%)	40.0	23.3	36.7	0.0
非観光 (%)	15.0	30.0	55.0	0.0
観光業 (%)	90.0	10.0	0.0	0.0



現在の与論町は、増加する観光入り込み客、生産牛の高値による取引などを背景として、町内所得は増加しているものと推定されます。

商工業者においては、特に観光関連産業が好調です。一方観光関連産業以外の業種では、全国平均との比較では「悪い状況」ではありませんが、必ずしも好況とはいえない状況と考えられます。

今後は、観光入り込み客による観光消費や産業の好調な出荷により流入した資金を、いかに町内に流通させるかが課題のひとつになると考えられます。

観光産業の一層の活性化とあわせ、顧客満足を通じた客単価の上昇、地域住民の視点に立脚した町内産業の高度化などへの取り組みが必要といえます。

与論町商工会は、国より経営発達支援計画の認定を受けており、この計画に基づく伴走型小規模事業者支援推進事業等を推進しています。

今後も各種事業を活用し、与論町の直面する様々な課題に対応していきたいと考えています。